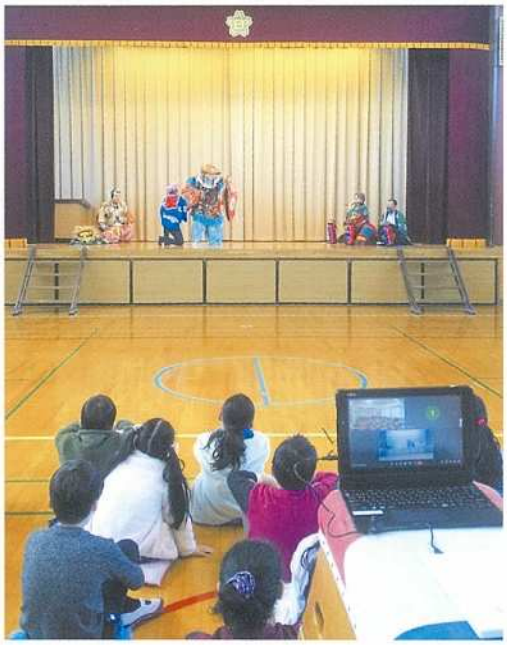
荒川ふるさと文化館だより

荒川区教育委員会
荒川ふるさと文化館
荒川区南千住6-63-1
TEL03(3807)9234
登 録(03)0049-2号

文化財NEWS速報　令和3年度文化財保護・継承活動報告

地域の文化財を守り伝えること

袈裟塚耳無不動の修理作業



第六日暮里小学校での里神楽上演

あらかわの町には、有形・無形のたくさんの文化財が残されています。区内では、貴重な文化財を大切に守り未来に伝えるためのさまざまな活動が行われています。

小学生「江戸の里神楽」に親しむ　令和4年2月、「江戸の里神楽」（国重要無形民俗文化財）の鑑賞会が第六日暮里小学校で行われました。同校は「江戸の里神楽」の保持団体・松本社中の地元の小学校です。鯛を釣るユーモラスな恵比寿様や、モドキという道化役も登場する「寿獅子舞」と「江戸の祭囃子」の演目が披露されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数を制限しての鑑賞となりましたが、オンラインを採り入れる等の工夫をして上演されました。日頃、日暮里の諏方神社の祭礼や節分祭でしか見ることができない「江戸の里神楽」の音色と舞を間近で体感することができました。

四百年以上の歴史ある樹木を守る　延命院のシイ（都指定天然記念物）は江戸時代のガイドブック「江戸名所図会」にも描かれている有名な巨木です。令和3年10月、都の樹木医の健康診断を受けて、樹木保護のために剪定作業が行われました。枝の生育は年間20㎝ほど伸びると推定されています。定期的な観察と剪定などの手入れは、樹木の保存上大切な作業です。

袈裟塚耳無不動の台座修理　明治通りに面した三峰神社（荒川三丁目）に安置されている袈裟塚の耳無不動（区指定有形民俗文化財）は、東日本大震災の後、台座と本体の位置にズレが生じていましたが、令和3年12月に漸く修理が完了しました。修理には、昔ながらの石工の技法が用いられました。管理している三河島三峰講代表・佐藤祐子さんが修理の準備を進めていた時に、お不動さんに信仰を寄せている方々から温かい支援を得られたそうです。

今回は、令和3年度の地域での文化財保護・継承活動を紹介しました。このような地域のみなさんの地道な活動により文化財は守られています。今後も読者のみなさまの文化財への関心が高まるような情報を提供していきます。

〈野尻かおる〉

延命院のシイ剪定作業

あらかわタイムトンネルズ32

シカゴ・コロンブス世界博覧会の表彰状　その2

― 出品物「色革」とは何か ―

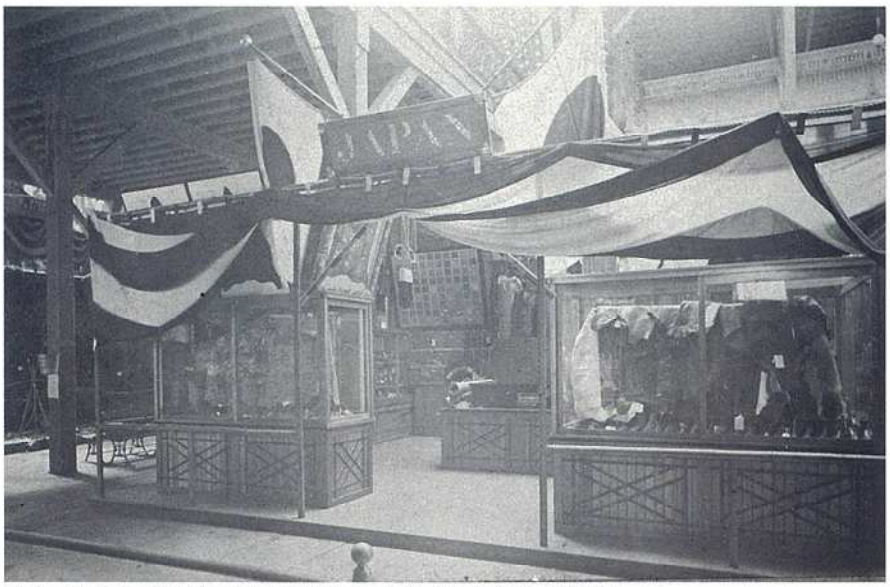


図1　「コロンブス博覧会本邦出品図」の内「製革館日本出品場」
（東京国立博物館所蔵　Image：TNM Image Archives）

続報！　丸山家の色革　前号では、荒川地区でかつて染革業を営んでいた丸山家から寄贈された、シカゴ・コロンブス世界博覧会（一八九三）に関する賞状と表彰された丸山音次郎等と出品物を紹介しました。その後、出品物が展示された博覧会会場の写真が現存していることがわかりました（図1）。

展示場をご案内　では、写真を頼りに展示場を覗いてみましょう。こちらは東京国立博物館所蔵「コロンブス博覧会本邦出品図」（会場写真）全30枚の内の一枚、「製革館日本出品場」です。日本の臨時博覧会事務局が現地で購入し、裏面に注記を書き加えたようです。

ブースの入り口には日の丸と「JAPAN」の看板が掲げられ、周囲は紅白幕のような布で華やかに飾り付けられています。内閣官報局の『官報』三二三六号及び『公式カタログ』に記載の出品物によると、手前右のケースには中央から色違いの複数の革と毛皮が掛けられ、下部には革細工のようなのも見えます。左のケースにも革が展示され、ケースの上には額縁に入った大判の革が貼りこまれています。奥の巨大な額縁には、蒔絵紋革（もんかわ）のような約100枚の革が飾られているようです。中央の台の上にも展示があるようで、英字の書かれたプレートも見えます。特に好評だったのは、紋革と染革見本、そして北海道産の毛皮でした（『臨時博覧会事務局報告』（以下、『報告』））。

音次郎が技術提供したという「色革」は右手前のケース内に飾られた色違いの革の可能性が高いと思われますが、確定は困難です。しかし、この会場のどこかに展示されていたことは確実です。

「色革」とは何か　『公式カタログ』によると、本展示場には北海道から九州までの革関連の品物が10件出品され、『官報』によれば内6件が褒賞を受けました。音次郎は軍製品用皮革製造でその名を轟かせていた田中幸吉の展示物に対し優れた「curried leather（なめした革）」の技術を提供ことで表彰されています。本作品は、日本語表記が公式に確認できる唯一の資料である『官報』の受賞人員及人名では、田中の品目を「色革」としています。一方、『公式カタログ』には「Leather work（革細工）」と表記され、また、音次郎の回顧によれば、この時、田中に提供したのは「牛チャリ革を手揉みしてシボを出し、『丸絞』と称し黒または小豆色に染めたもの」だったといいます（『東京都鞄同業協同組合沿革史』）。つまり、「色革」と表記された音次郎が染めた出品物は、単に着色された革というだけではなく、凹凸があって装飾性が高かったことが窺えます。

海外が見た色革　さて、『組合史』によると、音次郎の関わった色革は、お雇い外国人のアメリカ人から習った新商品・チャリ革でした。当時、日本では鞄用に好まれ始めていましたが、アメリカでは異なる用途があったようです。シカゴ万博において、皮革製品等は10の分類が設けられており、音次郎の色革は分類705「embossed leather furniture, wall decoration（家具や壁の装飾用に凹凸加工をしたもの）」（『公式カタログ』）、に振り分けられています。鞄用皮革の分類が用意されていたのにもかかわらず、このように振り分けられたことから、表面の凹凸は装飾性に富み、鞄以外の異なる用途の製品として想定されていたことが窺えます。ちなみに、日本におけるチャリ革の需要は、のちに軍靴の素材として高まるのですが、それにしても、当時は色革に家具用等の需要があることは、出品者にとっては予想外だったかもしれません。万博における日本・アメリカ双方の異なる表記からは、色革は海を越えて新たな価値が見出され、万博の一つの目的である輸出拡大に一役買ったということが言えるでしょう。

〈岡田 伊代〉

※資料の寄贈、紙面での紹介のご協力いただきました丸山春美様に心よりお礼申し上げます。

職人こぼれ話⑰

関岡家のお仕事
～木版画摺物の貼り込み帳の紹介～

からすみの浮世絵（図1）。これは、令和3年10月に開催した企画展「江戸文字を描く」の際、調査させていただいた、浮世絵の復刻や千社札などの製作で知られる関岡家所蔵の貼り込み帳からの一点。図1は図2左上の拡大画像で、こうした商品ラベルや掛け紙等94枚が貼り込まれていた。お聞きしたところ、木版画摺師であった先代の二代目関岡扇令（関岡功夫）が貼り込んだものだという。貼り込み帳の大半は千社札の貼り込み帳だったが、千代紙や年賀状が貼り込まれたものもあった。

図1 三越食料品部「珍味 からすみ」

図2 右上から、三越選「屠蘇おこし」、「おはぎ」、三越食料品部「珍味 からすみ」、松屋特選「鯉の鯱煮」、三越食料品部「鰹角煮」

当貼り込み帳の大きさは37㎝×27㎝で、浮世絵一枚が貼れるサイズである。摺物の大きさは大小さまざまで、それこそ浮世絵一枚分のものから（図3）、切符程度の大きさのものまである（図4・5）。

時期が分かる摺物は3点あり、古い方は、昭和8年（一九三三）の鳥越明神（台東区）の年の市のビラで（図5右下）、新しい方は、「昭和拾三年一月元旦」の鳶よしの年賀状なので、だいたいこの時期の摺物が貼り込まれていると考えられる。初代扇令こと関岡仙太郎の時代の仕事である。

貼り込まれた摺物には、神田明神門前の天野屋の甘酒ラベル（図5右上）や、向島七福神（図5左）など、興味深いものも多々あるが、松屋（図2右下）や高島屋（図4左下）などの百貨店の摺物が多数を占めている。中でも三越関係の摺物は、三越食料品部13点をはじめ全27点と、最も多い。関岡家から言えば、三越等は関岡家への発注元ということになり、関岡家の当時の仕事の一端が具体的に窺える。

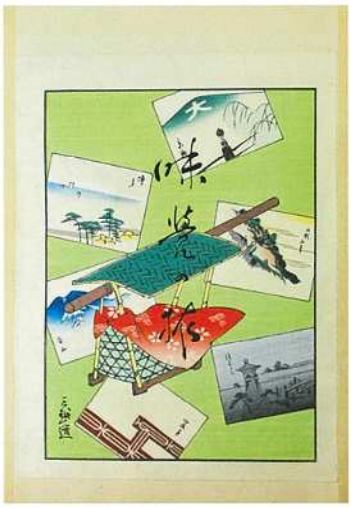


図3 三越選「味覚の旅」

図4 右上から銀座入船堂「港祭 今の芝浦」、同前「港まつり 昔のしばうら」、清月堂「高雅百撰 江戸好」、纏、日本橋高島屋「江戸の趣」

このことは、当時の東京における木版摺物の需要のあり方を示しているともいえる。江戸時代以来の多色摺木版技術は、明治以降もチラシ等に応用されたが、明治20年代中頃から石版や機械印刷にとって代わられていくといわれている（岩切信一郎『明治版画史』）。ただ、当貼り込み帳によると、実際には商品ラベルや掛け紙の世界で、少なくとも昭和初期まで引き続き用いられたということになる。また、浮世絵版画という観点からみれば、その当時の風景画を取り入れたものから（図3・4）、鰡（ボラ）やからすみのような、これまでになかった新たな意匠が生まれる契機にもなったといえよう。研究はこれからである。

〈亀川泰照〉

図5 右上から、神田明神鳥居際あまの、三越「千年の花」、鳥越明神「年の市」、「江戸好み かりん糖」、三越食堂「ゑくぼ福まんじう」、「特選御菓子」、「珍味 海月の雲母漬」、「向嶋七福神宝船」

※資料の閲覧・掲載を御許可くださいました関岡裕介様・小川信人様に心よりお礼申し上げます。

令和3年度
荒川区の文化財の一年・荒川ふるさと文化館の一年

◆4月25日～5月31日、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により休館。
その他の感染拡大防止対策については「※」で記載
◆月イチギャラリートーク及びワークショップ「あらわ座」は中止

◆◇　◇◆

令和3年（3月）～4月9日　町屋四丁目実揚遺跡K地点本調査
5月17日～6月30日　町屋四丁目実揚遺跡L地点本調査
6月1日～6月27日　館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」※期間延長
6月1日～7月7日　あらかわ伝統工芸ギャラリー展示第一期「はばたけ！若手職人展」開催※期間延長
6月～9月　博物館実習生受け入れ（7日間・4名）
6月24日・7月1日・7月15日・7月29日　古文書に親しむ～初級編～「村の事件簿」※実施日変更
6月24日～7月7日　七夕まつり（南千住図書館と共催）※七夕飾りのみ展示
6月26日　速報展関連イベント「伝統に生きる」上映会（鍛金・桶谷輝明氏つまみかんざし・石田一郎氏）
6月30日　区文化財保護審議会（諮問）
7月9日～9月8日　あらかわ伝統工芸ギャラリー展示第二期
7月31日～9月12日　館蔵資料展「絵葉書にみる近代あらかわ」
8月11日　夏休み子ども博物館「リトル学芸員」
8月17日　夏休み子ども博物館「勾玉作りにチャレンジ」（講師　八代龍門氏）
8月20日　夏休み子ども博物館「俳句をつくろう」（講師　倉澤節子氏・市橋洋子氏）
8月20日～10月29日　道灌山遺跡G地点本調査
8月22日　夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場　マイ箸を作ろう！」（講師　根本一德氏）

マイ箸を作ろう！

8月24日　夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場　パッチンどめを作ろう！」（講師　戸村絹代氏）
9月2日・10月7日・11月18日・12月2日　古文書に親しむ～中級編～「太田道灌を読み解く」
9月10日～12月19日　あらかわ伝統工芸ギャラリー展示第三期
9月14日　区文化財保護審議会（部会調査①）
9月17日　区文化財保護審議会（部会調査②）
9月30日　史跡説明板修繕（東京電灯千住発電所・町屋四丁目実揚遺跡）
10月5日～11月30日　あらかわ学校職人教室（区内小学校全24校）
10月4日・5日　延命院のシイ（都指定天然記念物）の剪定
10月30日～12月5日　企画展「江戸文字を描く―江戸のデザイン文字の魅力―」
11月3日・6日・7日　企画展関連イベント「あらわ座市」（荒川区伝統工芸技術保存会主催）
11月6日　企画展関連イベント展示解説
11月14日　企画展記念講演会「江戸のデザイン文字の歴史とその魅力」（講師　中村泰士氏・滝口正哉氏）
11月17日　区文化財保護審議会（部会調査③）

企画展「江戸文字を描く」

11月20日　企画展関連事業ワークショップ（文字を知る①）「提灯文字」（講師　村田健一郎氏）
11月27日　企画展関連事業ワークショップ（文字を知る②）「寄席文字」（講師　銘苅由佳氏）
11月30日　『荒川ふるさと文化館だより』第46号刊行
12月10日　袈裟塚耳無不動（区指定有形民俗文化財）修復工事
令和4年1月6日～4月13日　あらかわ伝統工芸ギャラリー展示第四期
2月9日　養福寺木造二天王立像（区指定有形文化財）安置方法調査
2月15日　区文化財保護審議会（答申）※一部委員オンライン開催
2月25日　令和3年度荒川区登録・指定文化財告示【指定】有形文化財（歴史資料）彰義隊関係追弔碑群（円通寺）、無形文化財（工芸技術）鍛金（保持者・福士豊二氏）、【登録】有形文化財（建造物）石浜神社本殿（石浜神社）、無形文化財（工芸技術）指物（保持者・井上健志氏）
2月27日　奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会千秋楽動画撮影※入賞作品等動画配信
2月28日　区指定文化財標柱2本設置（談林派歴代の句碑　養福寺仁王門）
3月3日～　奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会入選作品展示
3月11日　伝統工芸記録映像 伝統に生きる「漆塗　角光男」完成
3月12日　荒川区文化遺産地域活性化推進事業運営員会主催講演会
3月19日～27日「あらかわ伝統工芸Week」（伝統工芸品の展示・実演・体験）※あらかわの伝統技術展代替事業
3月19日～21日　あらかわ伝統工芸Week関連事業「あらわ座市」（荒川区伝統工芸技術保存会主催）
3月25日　『荒川ふるさと文化館だより』47号刊行

【埋蔵文化財報告書刊行のお知らせ】
『町屋四丁目実揚遺跡K地点』『町屋四丁目実揚遺跡L地点』の報告書が刊行されました。区内各図書館でもご覧いただけます。

訃　報

●荒川区指定無形文化財保持者（工芸技術・更紗染）真田定男氏（享年93、東尾久）は、去る令和4年2月11日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。